

第3章 第2次プランの評価

平成25年3月に29年度までの5か年計画として第2次「健康おうしゅう21プラン」を策定し健康づくりを推進してきました。

計画の最終年をむかえ、28年度実績（一部27年度）で評価を行い、課題を整理し第3次の計画につなげます。

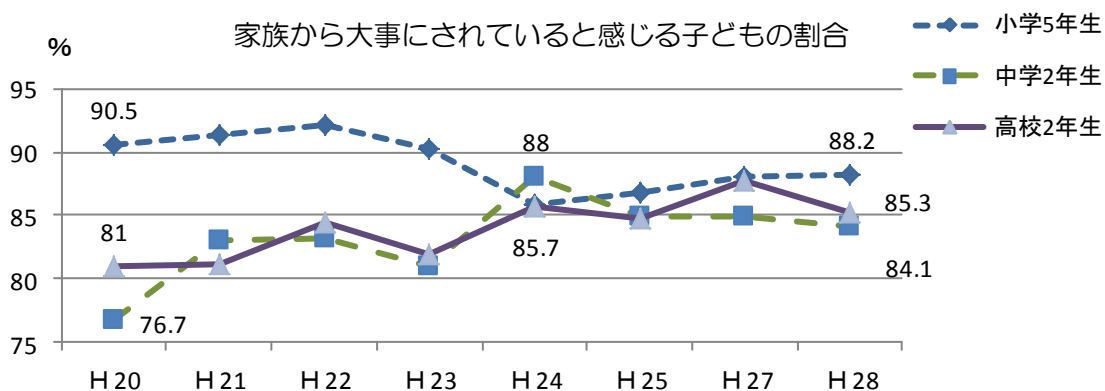
1 全体目標における評価

全体目標

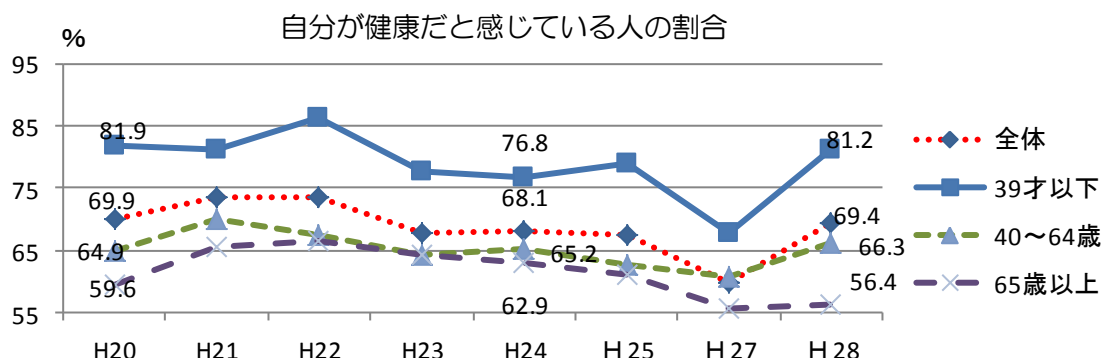
『慈しみ愛され子どもが育ち、笑顔と健康があふれるまち』

項目	基準値	目標	現状
家族から大切にされていると感じる子どもの割合	小学5年生 85.8% 中学2年生 88.0% 高校2年生 85.7% (平成24年度健康づくりアンケート)	増加	88.2% 84.1% 85.3% (平成28年度健康づくりアンケート)
健康だと感じている人の割合	68.1% (平成24年度健康づくりアンケート)	増加	69.4% (平成28年度健康づくりアンケート)
65歳未満の死亡者の割合	男性 16.2% 女性 8.2% (平成19～23年岩手県環境保健研究センター)	減少	13.3% 5.0% (平成23～27年岩手県環境保健研究センター)

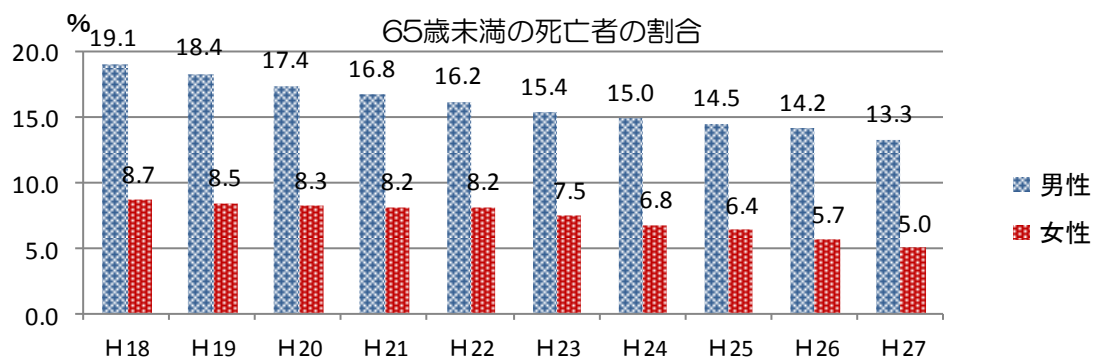
「家族から大切にされていると感じる子ども」は、24年度から小学生では若干増加したものの、中学生、高校生では減少していました。



「自分が健康だと感じている人」は、平成24年度から64歳以下の年代では若干増加し、65歳以上では6.5%の減少でした。



65歳未満の死亡割合は、減少傾向を示しています。



2 分野別指標の評価

各目標数値は、下記判定区分の基準により評価します。

【到達係数の計算方法】

$$\text{到達係数} = \frac{\text{平成28年度実績値と基準値（策定時の数値）との差}}{\text{目標値と基準値（策定時の数値）との差}} \times 100$$

【判定基準】

分野別目標値の評価結果については、「達成」、「順調に改善」、「やや改善」、「横ばい・悪化」で策定時と比較し評価します。

評価	判定区分	判定基準
◎	達成	到達係数 100以上
○	順調に改善	到達係数 50～99
△	やや改善	到達係数 1～49
×	横ばい、悪化	到達係数 0以下

3 目標の達成状況

目標の達成状況については、目標値を「達成」しているものが9項目、「順調に改善」「やや改善」の目標に向けて改善がみられるものが24項目、「横ばい、悪化」の改善が見られなかったものが40項目となっています。

ライフステージごとの達成状況

単位：項目

	評価指標	達成	順調に改善	やや改善	横ばい悪化	判定できず
妊娠・乳幼児期	16	1	3	2	3	7
学齢期・思春期	29	4	3	5	10	7
働き盛り	32	2	6	3	18	3
高齢期	13	2	0	2	9	0
合計	90	9 (10.0%)	12 (13.3%)	12 (13.3%)	40 (44.4%)	17

*判定できず：H24数値未把握だった項目

計画策定時の基準値に比べ、改善が見られた割合は36.7%となっています。

分野別では、「食べる」では、学齢期・思春期、働き盛り年代では、朝食を食べる人の割合が減少しており、妊婦も70.8%になっています。うす味に関しては、働き盛り年代、高齢期では、うす味を心がける人が増えています。また、働き盛り年代、高齢期で肥満者が増えています。

「動く」はどの年代も改善率が低い状況です。

「こころ」では、自殺死亡が減少しています。

「守る」のむし歯を持たない子どもの割合が、3歳児健康診査（以下「3歳児健診」）、学校保健統計において、増加していますが、働き盛り年代の歯周疾患が増加しています。また、喫煙率の減少が見られませんでした。

分野別の達成状況

単位：項目

	評価指標	達成	順調に改善	やや改善	横ばい悪化	判定できず
食べる	28	1 (3.6%)	5 (17.9%)	3 (10.7%)	10 (35.7%)	9
動く	12	0	1 (8.3%)	0	6 (50.0%)	5
こころ	19	3 (15.8%)	0	5 (26.3%)	10 (52.6%)	1
守る	31	5 (16.1%)	6 (19.4%)	4 (12.9%)	14 (45.2%)	2
合計	90	9	12	12	40	17
		36.7%			44.4%	

ライフステージ別分野別の達成状況

《妊娠期・乳幼児期》

分野	項目	対象	基準値 H24	目標値	現状値 H28	評価
食べる	出生体重2,500g未満の低体重児の割合	出生児	9.2%	減らす	8.5%	○
	朝食を毎日食べる人の割合	妊婦	未把握	増やす	70.8%	
		3歳児			95.7%	
	主食、主菜、副菜のそろった食事をしている人の割合	妊婦	未把握	増やす	81.9%	
3歳児		89.1%				
動く	テレビ、DVDなどを2時間以上見る子どもの割合	3歳児	未把握	減らす	34.4%	
こころ	子育てで相談できる人がいる割合	3歳児の 保護者	98.2%	100%	98.5%	△
	育児が楽しいと感じる保護者の割合		87.1%	92%	83.8%	×
	絵本の読み聞かせをしている保護者の割合		未把握	増やす	85.7%	
	父親の育児参加の割合		88.7%	95%	87.3%	×
守る	朝7時までに起床している子どもの割合	3歳児	未把握	増やす	87.9%	
	むし歯を持たない子どもの割合	3歳児	77.9%	85%	85.3%	◎
	大人による仕上げ磨きの割合	4歳児	70.5%	83%	79.7%	○
		5歳児	65.3%	75%	71.9%	○
	妊婦の喫煙率	妊婦	3.3%	0%	2.1%	△
	赤ちゃんのいる所でたばこを吸わない家庭の割合	4か月児の いる家庭	96.5%	100%	96.2%	×

《学齢期・思春期》

分野	項目	対象	基準値 H24	目標値	現状値 H28	評価
食べる	朝食を毎日食べる子どもの割合	小学5年生	95.4%	100%	91.8%	×
		中学2年生	93.7%	95%	91.7%	×
		高校2年生	87.2%	90%	84.7%	×
	主食、主菜、副菜のそろった食事をしている割合（一日に2回以上、ほぼ毎日）	小学5年生	未把握	増やす	55.2%	
		中学2年生			61.0%	
		高校2年生			46.0%	
	小中高生の肥満者の割合	小学5年生男	15.2%	12%	14.0%	△
		小学5年生女	10.9%	8.5%	8.6%	○
		中学2年生男	10.0%	8.5%	8.9%	○
		中学2年生女	11.6%	9.0%	13.9%	×
		高校2年生男	13.1%	11.0%	12.5%	△
		高校2年生女	14.3%	11.0%	9.3%	◎

動 く	テレビ、DVDなどを2時間以上見る子どもの割合	小学5年生	41.0%	減らす	49.0%	(×)
		中学2年生	51.8%		51.0%	(×)
	運動が好きな子どもの割合	小学5年生男	87.2%	増やす	93.5%	
		小学5年生女			91.2%	
		中学2年生男	82.6%	増やす	91.4%	
中学2年生女		78.3%				
L L L	悩みを相談できる人がいる子どもの割合	小学5年生	82.4%	90%	84.7%	△
		中学2年生	83.4%	90%	81.6%	×
		高校2年生	83.6%	90%	80.0%	×
	家族から大事にされていると感じる子どもの割合	小学5年生	85.8%	増やす	88.2%	(△)
		中学2年生	88.0%		84.1%	(×)
		高校2年生	85.7%		85.3%	(×)
守 る	う歯(むし歯)を持たない子どもの割合	小学1年生	45.3%	50%	58.5%	◎
		中学1年生	52.2%	55%	61.0%	◎
	12歳児の一人平均う歯数	中学1年生	1.15本	1.0本	0.82本	◎
	将来、たばこを吸わないと回答する子どもの割合	中学2年生	73.4%	増やす	74.3%	(△)
高校2年生		79.9%	84.6%		(○)	

《働き盛り》

分野	項目	対象	基準値 H24	目標値	現状値 H28	評価
食 べ る	朝食を毎日食べる人の割合	20~39歳	80.7%	85%	75.7%	×
		40~64歳	91.2%	95%	90.6%	×
	主食、主菜、副菜のそろった食事をしている人の割合(一日に2回以上、ほぼ毎日)	20~39歳	未把握	増やす	45.9%	
		40~64歳			55.2%	
	うす味を心がけている人の割合	20~39歳	53.0%	60%	58.7%	○
		40~64歳	65.2%	70%	69.9%	○
	肥満者(BMI 25以上の人)の割合	40~64歳男性	34.9%	30%	39.9%	×
40~64歳女性		27.3%	25%	27.3%	×	
動 く	運動習慣のある人の割合	40歳代男性	48.6%	50%	46.6%	×
		40歳代女性	40.7%	50%	48.2%	○
		50歳代男性	46.0%	50%	42.9%	×
		50歳代女性	47.4%	50%	43.2%	×
L L L	悩みを相談できる人がいる割合	20~64歳	81.8%	88%	88.7%	◎
	よく眠れている人の割合	20~39歳	83.6%	87%	73.1%	×
		40~64歳	80.1%	85%	76.2%	×
	自殺死亡率(人口10万対 5年平均)	20~64歳男性	61.3	50.0以下	43.8	◎
		20~64歳女性	12.0	7.0以下	11.6	△

守 る	健（検）診の受診率	特定健康診査	40～74歳	42.6%	60%	42.1%	×
		大腸がん検診	40～69歳	22.3%	35%	32.1%	○
		肺がん検診		27.0%	35%	33.4%	○
		胃がん検診		13.1%	25%	13.5%	△
		乳がん検診		32.4%	40%	33.0%	△
		子宮頸がん検診	20～69歳	24.0%	35%	31.3%	○
	過去1年間に歯科健診を受けたことがある人の割合	20～64歳	未把握	増やす	42.0%		
	進行した歯周病を持つ人の割合	20～39歳	37.7%	30%	40.5%	×	
		40歳	53.5%	45%	65.4%	×	
		50歳	64.6%	60%	69.4%	×	
		60歳	73.2%	70%	79.8%	×	
	成人の喫煙率	40～64歳男性	33.6%	30%	35.2%	×	
		40～64歳女性	6.5%	5%	7.9%	×	
	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人の割合	40～64歳男性	16.9%	15.5%	19.5%	×	
		40～64歳女性	5.0%	4.5%	13.4%	×	

《高齢期》

分野	項目	対象	基準値 H24	目標値	現状値 H28	評価
食 べ る	肥満者（BMI25以上の人）の割合	65～74歳男性	32.0%	30%	31.6%	×
		65～74歳女性	26.3%	25.0%	27.5%	×
	うす味をこころがけている人の割合	65歳以上	83.3%	90%	84.5%	△
動 く	運動習慣のある人の割合	65～74歳	64.9%	68.0%	52.9%	×
こ ろ ろ	よく眠れている人の割合	65歳以上	82.0%	85%	82.9%	△
	生活に楽しみや生きがいのある人の割合	65歳以上	74.3%	増やす	58.4%	(×)
	悩みを相談できる人がいる割合	65歳以上	79.0%	85.0%	74.1%	×
	高齢女性の自殺死亡率（人口10万対）	65歳以上女性	35.4	30.0	27.3	◎
守 る	口の働きに満足している人の割合	70歳	13.3%	20.0%	7.9%	×
	70歳で22本以上の歯のある人の割合	70歳	62.7%	65.0%	66.7%	◎
	喫煙率	65～74歳男性	18.7%	15.0%	21.8%	×
		65～74歳女性	1.9%	1.6%	2.6%	×
	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人の割合	65～74歳男性	7.6%	7.0%	12.7%	×

3 分野別評価

(1) 食べる

【みんなで目指す重点目標】

妊娠期・乳幼児期

- ・朝ごはんをしっかり食べよう
- ・1日3食バランスの良い食事を心がけよう

学齢期・思春期

- ・朝ごはんをしっかり食べよう
- ・主食、主菜、副菜のそろったバランスの良い食事を心がけよう
- ・食事をつくる力を身につけよう

働き盛り

- ・毎日朝食を食べ、主食、主菜、副菜のそろったバランスの良い味の食事を心がけよう
- ・栄養の過剰摂取に気をつけ、適正体重を維持しよう

高齢期

- ・自分の適量と必要な栄養を知り、バランスの良い食事をしよう

【重点目標実現に向けた取り組み】

妊娠期・乳幼児期

母子健康手帳交付時の食事アンケートや、母親教室・パパママセミナーを通して、自分の食生活や生活リズムについて一緒に振り返ることで、自らの課題に気づき、改善する意欲を引き出しました。また、フォローが必要な妊婦に対し、管理栄養士が電話や家庭訪問により相談対応を行いました。

乳幼児健康診査（以下「乳幼児健診」）では、年齢に合わせた食事指導を行うとともに、朝食を食べる習慣を身に付けるため、広報やHPなどで「家族そろって朝食ディ」の普及に取り組んでいます。

生活習慣病対策として、母親教室、4か月児健康診査（以下「4か月児健診」）時の離乳食指導時に塩分が0.8%と0.3%の味噌汁の試食を行い、減塩への意識づけを行いました。

また、将来の生活習慣病予防として、3歳児健診で肥満度15%以上の児の保護者に対し、肥満改善のための個別相談会を実施しています。平成28年度は80名を対象に、延143回の指導を行い、20名が改善に至り終了となっています。

学齢期・思春期

奥州市食育推進計画の基、クッキング体験や広報への「子どもが喜ぶ栄養士おすすめレシピ」の掲載、地場産品を利用した給食作りや試食会の開催、学校やPTAが給食便りの文書等で家庭での食育を推進しました。また、食生活改善推進員による「親と子の料理教室」や、望ましい食生活を身につけてもらうための食育カルタ等を使って、地域で普及啓発に取り組んできました。

働き盛り・高齢期

健康教室等で減塩の普及や「毎月28日は適塩・減塩の日」とし、うす味の推進を図ってきました。また、特に3年かけた市内すべての地区センターでの健康まるごと講座では、脳卒中予防について重点的に取り組んできました。脳卒中による死亡は減少してきているものの、平成27年は人口10万対では165.0と全国の89.4と比較し、1.8倍と高くなっており、まだまだ重要な課題となっています。

また、地域での食生活改善を推進するため食生活改善推進員の養成・育成を図り、29年4月1日現在、498名の推進員が地域でその役割を担い、活動しています。健康まるごと講座や地域のサロンにおいて、バランス食や、間食・嗜好品の望ましい摂り方について、食生活改善推進員の協力を得て普及に努めました。

特定保健指導を利用する人を増やすために、勧奨通知の他、電話による勧奨等を行いました。28年度は積極的支援2.7%、動機づけ支援7.5%と他市町村に比較し低い状況が続いています。

《成果指標1》 出生体重2,500g未満の低体重児の割合を減らします

(妊娠期・乳幼児期)

9.2%から8.5%と減少傾向です。

《成果指標2》 朝食を毎日食べる人を増やします

朝食を毎日食べる習慣のある人が、小中高生、20～39歳で減少しています。

年代別朝食摂取率の年次推移

	平成24年	平成25年	平成27年	平成28年
妊婦	未把握	77.1%	未把握	70.8%
3歳児	未把握	94.9%	95.5%	95.7%
小学5年生	95.4%	93.9%	93.5%	91.8%
中学2年生	93.7%	93.0%	92.3%	91.7%
高校2年生	87.2%	83.9%	85.2%	84.7%
20～39歳	80.7%	76.3%	72.0%	75.7%
40～64歳	91.2%	90.5%	88.0%	90.6%

資料：健康づくりアンケート

《成果指標3》 主食、主菜、副菜のそろった食事をしている人を増やします

減少傾向、または横ばい状態にあります。

年代別 主食、主菜、副菜のそろった食事をしている人の割合年次推移
(一日に2回以上、ほぼ毎日)

	平成 25 年	平成 27 年	平成 28 年
妊 婦	66.3%	未把握	81.9%
3 歳児	91.3%	未把握	89.1%
小学 5 年生	58.1%	51.4%	55.2%
中学 2 年生	59.0%	57.8%	61.0%
高校 2 年生	48.1%	54.8%	46.0%
20～39 歳	48.7%	38.7%	45.9%
40～64 歳	60.1%	59.3%	55.2%

資料：健康づくりアンケート

《成果指標4》 うす味を心がけている人を増やします

増減はありますが、全体的に増加傾向にあります。

年代別うす味を心がけている人の割合

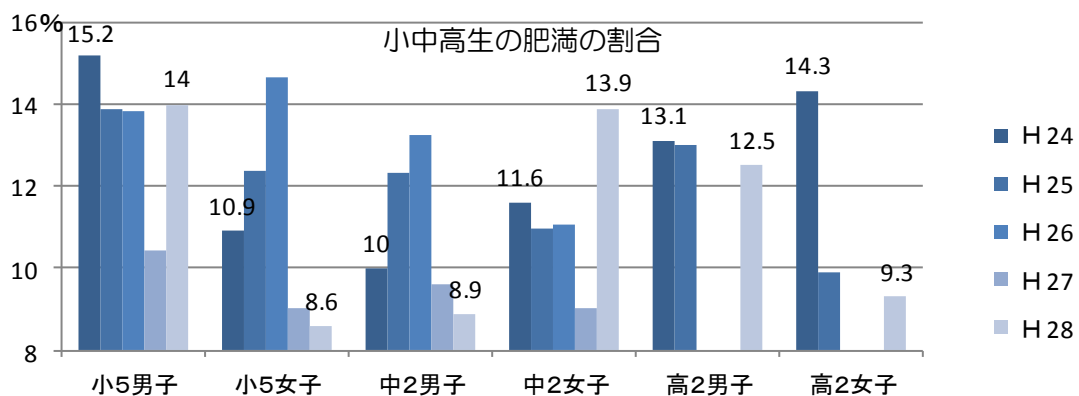
	平成 24 年	平成 25 年	平成 27 年	平成 28 年
20～39 歳	53.0%	52.6%	47.6%	58.7%
40～64 歳	65.2%	68.9%	62.2%	69.9%
65 歳以上	83.3%	81.4%	78.6%	84.5%

資料：健康づくりアンケート

《成果指標5》 肥満者を減らします

小中高生は、増減を繰り返し、中学2年生女子を除くと減少傾向にあります。

ただし、全国と比較し小学5年生男子、中学2年生女子、高校2年生男女とも肥満の割合が高くなっており、成人になってからの肥満へとつながっている可能性が十分にありま。学年が進むにつれ、朝食を摂取する割合も減っていることから、規則正しい生活リズム、食生活の一層の推進が課題となります。



資料：学校保健統計

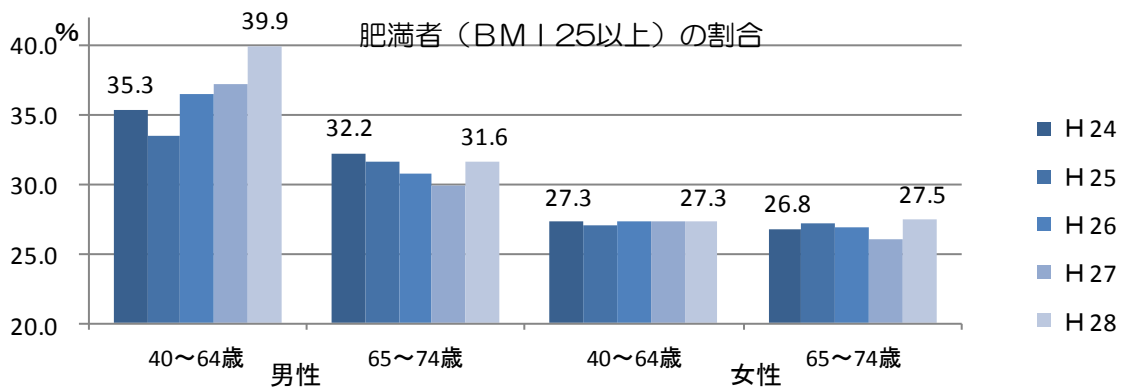
肥満：肥満度20%以上の児童生徒

平成28年度 奥州市、岩手県、全国との比較（肥満度20%以上）

		奥州市	岩手県	全国	全国との比較
小学5年生	男子	14.0	15.31	10.01	3.99
	女子	8.6	8.93	7.86	0.74
中学2年生	男子	8.9	14.06	8.28	0.62
	女子	13.9	10.30	7.46	6.44
高校2年生	男子	12.5	16.36	6.93	5.57
	女子	9.3	11.87	4.51	4.79

資料：学校保健統計

成人では、40歳から64歳の男性が著しく増加し、約4割が肥満です。
また、65歳から74歳の男性、40歳から74歳の女性も3割程度が肥満です。



資料：特定健康診査データ

* BMI：体重と身長の関係から算出した肥満度を表す指数

計算式：BMI = 体重 (kg) ÷ 身長 (m) ÷ 身長 (m)

(2) 動く

【みんなで目指す重点目標】

妊娠期・乳幼児期

- ・家族や友だちとふれあい、楽しく安全に体を動かそう

学齢期・思春期

- ・積極的に体を動かし、基礎体力を向上させよう

働き盛り

- ・日常生活の中で、意識して体を動かす時間をつくろう

高齢期

- ・自分に適した運動を行い、足腰の痛みを予防、軽減しよう
- ・毎日の生活の中で、体を動かす機会を増やそう

【重点目標実現のための取り組み】

妊娠期・乳幼児期

同年齢や異年齢の子ども同士の交流を通し、親子で体を使った遊びなどの体験ができるよう、教育・保育施設に通園していない児については、積極的に遊びの広場や子育て支援センターの利用を勧めました。

学齢期・思春期

学校において、ノーマディアデー週間を設け、テレビの視聴やゲームの時間を制限し子どもだけではなく、家族みんなで取り組んできました。

また、運動が好きな子どもについて、小学5年生と中学2年生を指標にしていますが、中学2年生女子が他の学年、性別と比較し低くなっています。また、全国と比較し、やはり中学2年生女子の肥満が全国を大きく上回っています。学校の統廃合により、スクールバス利用の児童生徒が増え、歩いて登下校する機会も減り、スクールバスの時間等により遊びの時間に制限があるなど、運動能力の低下と肥満対策について、教育現場と連携して取り組んでいく必要があります。

働き盛り・高齢期

特定健康診査（以下、特定健診）受診者に対し、結果通知に合わせて公共の運動施設利用券を発行し、運動習慣のきっかけづくりを行いました。また、健康増進プラザ悠悠館を活用し、特定健診後の生活習慣病予防教室を開催しました。多くの市民から活用されている悠悠館では、個々の体力や年齢、目的に合わせた教室の開催により、平成28年度の利用者は32,789人と年々増加傾向です。

チャレンジデー2016では67.9%の参加率となっており、全国的に見ても高い水準で推移しています。また、28年度は岩手国体も開催され、市においても複数の競技が行われ、スポーツに対する関心も高まりました。

出前健康講座のメニューに「膝痛・腰痛予防体操」「いきいき百歳体操の体験」等を盛り込み、サロン等で普及啓発を行いました。

《成果指標1》 テレビ、DVDなどを2時間以上見る子どもの割合を減らします

3歳児では、増減があります。テレビやDVDに頼らない子育てをさらに推進していく必要があります。

テレビ、DVDなどを2時間以上見る子どもの割合（3歳児）

平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
37.6%	37.2%	38.8%	34.4%

資料：3歳児健診問診票

小学5年生は増えていて、中学2年生は横ばいの状況です。

学校では、ノーマディアデー週間を設け取り組んでいる状況にあり、連携して取り組んでいく必要があります。

テレビ、DVDなど2時間以上見る子どもの割合（小学5年生、中学2年生）

	平成24年	平成28年
小学5年生	41.0%	49.0%
中学2年生	51.8%	51.0%

資料：岩手県学習定着度調査

《成果指標2》 運動が好きな子どもの割合を増やします

平成24年度の岩手県学習定着度状況調査と28年度の全国体力・運動能力調査では、回答の表現が変わっており、また、男女も分けて統計をとっているため、比較に困難性がありますが、「どちらかといえば好き」を「やや好き」と同様にとらえると、小学生では男女とも90%を超えています。また、中学生では、男子91.4%、女子78.3%と差があります。

小学5年生、中学2年生運動が好きな子どもの割合

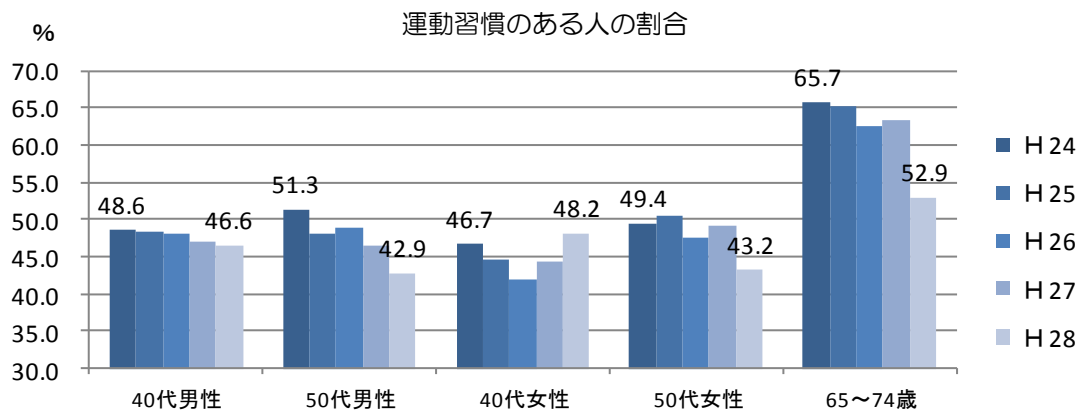
		平成24年	平成28年
小学5年生	男	87.2%	93.5%
	女		91.2%
中学2年生	男	82.6%	91.4%
	女		78.3%

資料：H24岩手県学習定着度状況調査（好き、どちらかといえば好き）

H28全国体力・運動能力調査（好き、やや好き）

《成果指標3》 運動習慣のある人の割合を増やします

40歳代の女性が増加したものの、男性の40歳代、50歳代では減少しており、目標の50%には届きませんでした。また、65歳から74歳では、若い年代に比較し、運動習慣のある人は多いものの、目標の68%に対し65.7%から52.9%と減少していました。



資料：特定健診質問票

(3) ころ

【みんなで目指す重点目標】

妊娠期・乳幼児期

- ・安心して妊娠期を過ごし、赤ちゃんを迎えよう
- ・親子のふれあいを大切にし、子どもの心と体を健やかに育てよう

学齢期・思春期

- ・家族や友人とのコミュニケーションを大事にし、健やかな心を育もう
- ・困った時は相談しよう

働き盛り

- ・自分に合ったリラックス方法を見つけよう
- ・家庭や地域でのコミュニケーションを大切にしよう
- ・自殺のない、生きやすい地域づくりを推進しよう

高齢期

- ・1日1笑、楽しみ・生きがいを持って生活しよう
- ・交流の場に積極的に参加しよう

【重点目標の実現のための取り組み】

妊娠期・乳幼児期

複雑な社会情勢の中、支援が必要な妊婦や養育支援の必要な家庭が増えています。シングルでの出産、経済的困窮、母親のメンタル、疾患を持つ児、虐待の疑われる児など、医療機関や関係機関との連携が必須となっています。

心身ともに健やかに子どもを育てるため、絵本の読み聞かせ等の親子のふれあいの大切さについて啓発、パパママセミナー等で父親の積極的な子育て参加の醸成などに努めてきました。

学齢期・思春期

思春期保健連絡会を開催し、学校と行政が連携を図り、情報や課題の共有を図っているところです。また、産婦人科医師による「思春期保健講話」の他、新たに平成25年度からは精神科医師による「中学生のための命の大切さを考える講演会」を開催してきました。中学生からは「困っている友人がいたら相談に乗ってあげたい」「自分が困った時には、一人で悩まずに相談しようと思った」というような感想があげられています。

働き盛り

23年度から、ゲートキーパー養成講座を開始し、28年度までに3,351人が受講しています。ゲートキーパーの視点を持つ人が増えることで、お互いに声を掛け合える社会につながると思います。また、啓発用リーフレット及びステッカーの全戸配布、乳幼児健診時のリーフレット配布等、心の健康づくりについて普及啓発を図ってきました。

働き盛り年代の男性の自殺が課題であったことから、26年度からは、50歳の男性に対し「ころの健康度チェック表」の配布と回収を実施し、必要と思われる方に対しては、個別のフォローを行いました。27年の奥州市男性の人口10万対自殺死亡率は、全

国の26.6を初めて下回り26.1となりました。

高齢期

平成29年度から、一般介護予防事業として住民主体の通いの場「よさってクラブ」がスタートしました。週1回集まることで、身体機能の維持だけではなく、引きこもりや認知症の予防も期待でき、お互い参加者の交流を持つことにより、生活に楽しみや生きがいが出てきます。また、よさってクラブの活用その他、地域のサロン等で「こころの健康づくり」について、普及啓発を行っています。

27年奥州市女性の人口10万対自殺死亡率は、減少傾向にあるものの、全国の10.8人に対し、市は14.5人とまだ高率となっています。市の傾向として、女性の自殺は高齢者に多いことから、この高齢者女性の自殺対策を推進していく必要があります。29年度から胆沢地域をモデルに「心いきいき事業」をスタートさせて、課題の洗い出しを行っています。

《成果指標1》 子育てで相談できる人がいる人の割合を増やします (3歳児の保護者)

横ばいで推移しています。

子育てで相談できる人がいる人の割合

平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
98.2%	97.4%	98.4%	98.6%	98.2%	98.5%

資料：3歳児健診問診票

《成果指標2》 育児が楽しいと感じる保護者の割合を増やします (3歳児の保護者) 増減しており、目標の92%を下回っています。

育児が楽しいと感じる人の割合

平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
87.1%	88.5%	89.7%	87.4%	83.2%	83.8%

資料：3歳児健診問診票

《成果指標3》 絵本の読み聞かせをしている保護者の割合を増やします (3歳児の保護者)

横ばいで推移しています。

絵本の読み聞かせをしている保護者の割合 (週1回以上)

平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
85.9%	86.6%	87.5%	85.7%

資料：3歳児健診問診票

《成果指標4》 父親の育児参加を増やします（3歳児の保護者）

増減し、横ばい状態で、目標の95%を下回っています。

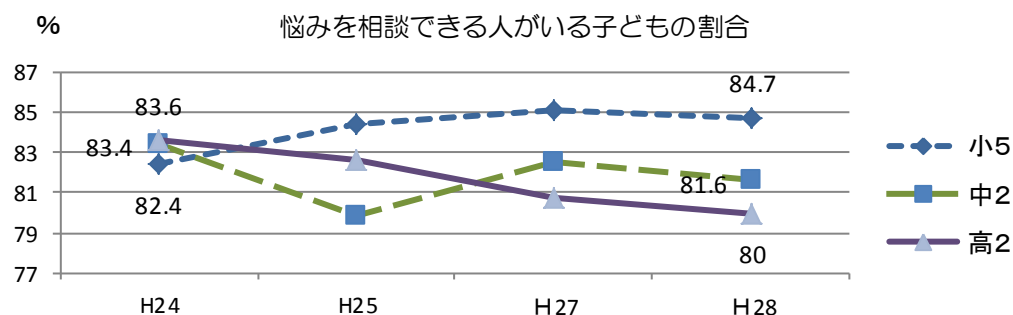
父親の育児参加の割合

平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
88.7%	81.8%	83.1%	81.9%	88.1%	87.3%

資料：3歳児健診問診票

《成果指標5》 悩みを相談できる人がいる子どもを増やします

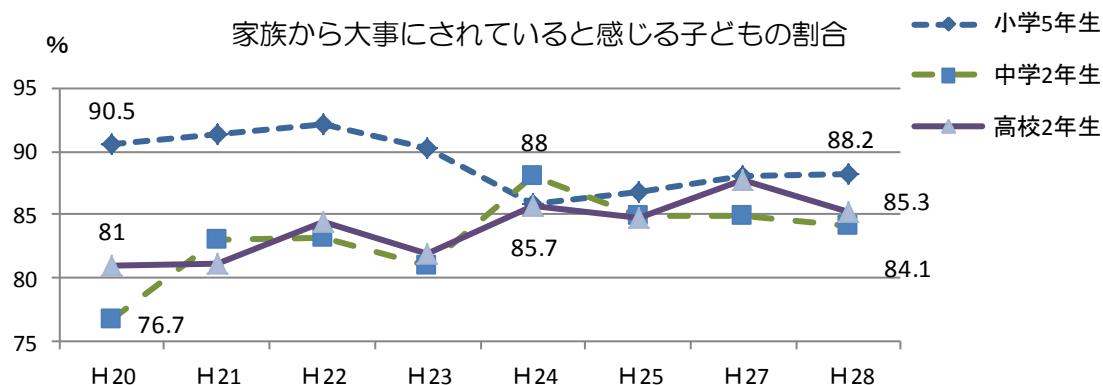
学年が進むにつれて、相談できる人がいる割合が減少しています。特に、高校生では減少傾向にあります。すべての学年で90%の目標を下回っています。



資料：健康づくりアンケート

《成果指標6》 家族から大事にされていると感じる子どもの割合を増やします

「家族から大事にされていると感じる子ども」は、平成24年度から小学生では若干増加したものの、中学生、高校生では減少しました。



資料：健康づくりアンケート

《成果指標7》 悩みを相談できる人がいる割合を増やします

若い年代では増えており、目標の88%に達成していますが、65歳以上では減少したまま横ばい状態で目標の85%には到達できていません。高齢者になるほど、1人で悩みを抱え込んでいる様子が見えます。

悩みを相談できる人がいる割合

	平成 24 年	平成 25 年	平成 27 年	平成 28 年
20～64 歳	81.8%	85.5%	72.2%	88.7%
65 歳以上	79.0%	74.0%	74.1%	74.1%
全 体	80.8%	81.3%	72.9%	84.5%

資料：健康づくりアンケート

《成果指標 8》 よく眠れている人の割合を増やします

65歳以上は横ばいで、目標の85%に到達できていません。また、20歳から39歳、40歳から64歳の年代では減少傾向が続き、それぞれ目標の87%、85%からの差が拡大しています。ライフスタイル、勤務体系の変化で、夜型の人が増えているのではないかと思います。

よく眠れている人の割合

	平成 24 年	平成 25 年	平成 27 年	平成 28 年
20～39 歳	83.6%	79.6%	78.6%	73.1%
40～64 歳	80.1%	78.4%	72.9%	76.2%
65 歳以上	82.0%	78.0%	80.0%	82.9%
全 体	81.9%	78.7%	76.9%	76.9%

資料：健康づくりアンケート

《成果指標 9》 生活に楽しみや生きがいがある人を増やします

楽しみや生きがいがある65歳以上の高齢者は、激減しています。

高齢者の居場所や生きがい対策について、関係機関と課題共有を図り、生き生きとした高齢者を増やすことが必要です。

生活に楽しみや生きがいのある人の割合（65歳以上）

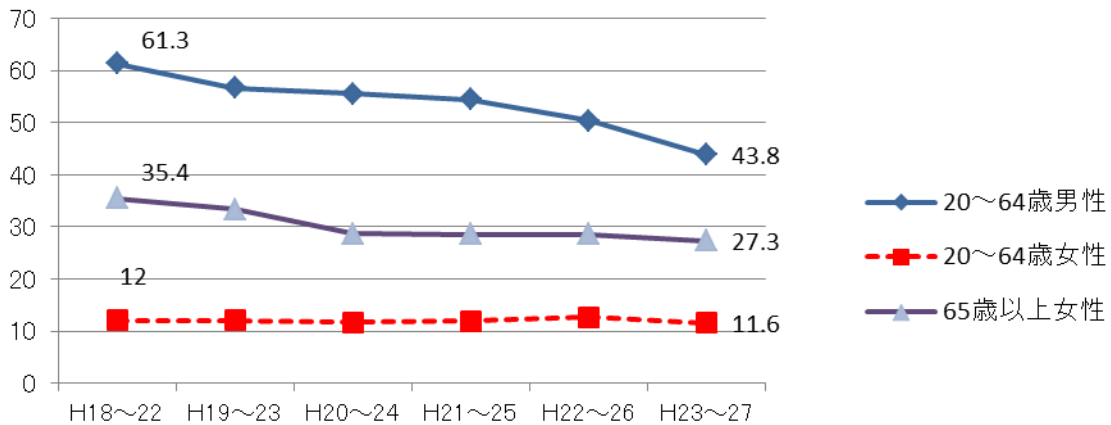
平成22年	平成28年
74.3%	58.4%

資料：日常生活圏域ニーズ調査

《成果指標 10》 自殺死亡率を減らします

20歳から64歳男性は、人口10万対5年平均で61.3から43.8に減少し、目標50以下を達成しています。同じ年代の女性は横ばい状態で、減少傾向にあります。目標の7.0以下に達していません。また、65歳以上女性は、35.4から27.3に減少しており、目標の30.0以下を達成していますが、岩手県と比較し、高齢女性の自殺率が2倍ほどになっており、市の課題と言えます。

自殺死亡率（人口10万対5年平均）



資料：岩手県環境保健研究センター

(4) 守る

【みんなで目指す重点目標】

妊娠期・乳幼児期

- ・早寝、早起きの習慣を身につけよう
- ・保護者による毎日の仕上げ磨きにより、子どものむし歯を減らそう
- ・妊婦や乳幼児をたばこの害から守ろう

学齢期・思春期

- ・健康的な生活リズムを身につけよう
- ・自分で上手に歯を磨ける力を身につけよう
- ・たばこの害について知り、自ら遠ざかろう
- ・男女の性を理解し、互いを尊重することや命の大切さを学び合おう

働き盛り

- ・定期的に健（検）診を受け、自分の健康状態を確認しよう
- ・異常がある時は、改善のための取り組みをしよう
- ・定期的に歯科健診を受け、歯周病を予防しよう
- ・適正飲酒を心がけ、生活習慣病を予防しよう
- ・禁煙・分煙に積極的に取り組もう

高齢期

- ・体の変化や異常に、早期に対応しよう
- ・良い口腔機能を維持し、いつまでもおいしく楽しく食べよう
- ・適量飲酒を守り、豊かな老後を楽しもう
- ・禁煙、分煙に積極的に取り組もう

【重点目標の実現に向けた取り組み】

妊娠期・乳幼児期

母親教室、パパママセミナー、乳幼児健診において、「早寝、早起き、朝ごはん」「子どもの歯の手入れ」について、繰り返し伝えてきました。中には、大人的生活習慣がそのまま子どもの生活にも持ち込まれ、生活リズムが夜型になっている子どももいます。

3歳児のむし歯は減少していますが、4歳になると仕上げ磨きの手が離れる傾向にあり、その後からむし歯が増えています。特に、前沢地域でむし歯が多いことから、平成29年度から前沢地域において、モデル地区指定として「さわやか歯っぴい事業」をスタートさせ、祖父母世代に前沢の子どものむし歯の現状と課題について伝えていきます。

受動喫煙の害については、母子健康手帳交付時、乳幼児健診時に個別に伝え、啓発に努めました。

学齢期・思春期

学校保健委員会との連携、情報共有を図りました。歯科保健について、前沢地域のモデル事業の「さわやか歯っぴい事業」の中で、6か年の計画で前沢小学校において健康教育を取り入れました。また、思春期保健講話を通じ、性に関する正しい知識を学び、自分も相手も大切にしようと呼びかけました。

働き盛り

複数の検診を同時に受けることができるセット検診、女性だけの検診日、夕方検診、一部集団健診の拡大、人間ドック受診者に対し特定健診分の費用の助成を行い、検（健）診受診率向上に取り組んできました。また、精密検査対象者のうち、未受診者には、電話等で個別に勧奨しました。

働き盛り年代の歯について、若い時から、かかりつけ歯科医師を持ち、定期的に受診することで、健康的な口腔環境を保ち、将来の身体機能の維持のため、27年度から35歳の成人歯科健康診査（以下「成人歯科健診」）を導入しました。

高齢期

しっかりと食べて身体機能を維持することができるよう、27年度から75歳の歯科健診を開始しました。また、健康まるごと講座を通じて、脳卒中の予防と歯科保健の意識の向上を目指し啓発を行いました。

喫煙率は増加傾向にあり、COPD*に対する知識と予防について、啓発に努めていかなければなりません。

生活習慣病のリスクを高める飲酒量は、増加傾向にあります。

*COPD 慢性閉塞性肺疾患（肺気腫、慢性気管支炎）

〈成果指標1〉 朝7時までに起床している子どもの割合を増やします（3歳児）

朝7時までに起床している3歳児は、若干、増加傾向にあります。

朝7時までに起床している3歳児の割合

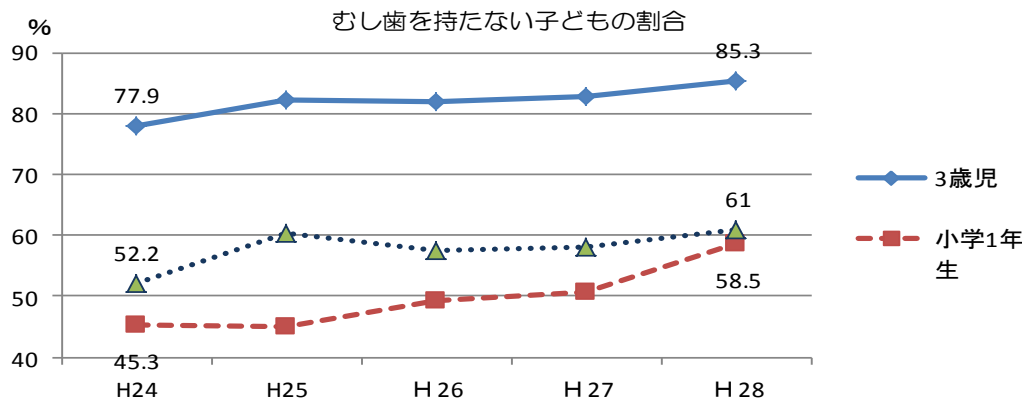
平成25年	平成27年	平成28年
86.4%	88.2%	87.9%

資料：3歳児健診問診票

《成果指標2》 むし歯を持たない子どもの割合を増やします

(3歳児、小学1年生、中学1年生)

3歳児の目標85%、小学1年生の目標50%、中学1年生の目標55%をすべて達成しました。3歳児健診までの各種健診での情報提供、また、教育・保育施設でのフッ化物洗口の実施及び健康教育、学校現場での取り組みなど連携して目標を達成することができました。ただし、課題として個人差が拡大していると感じられます。

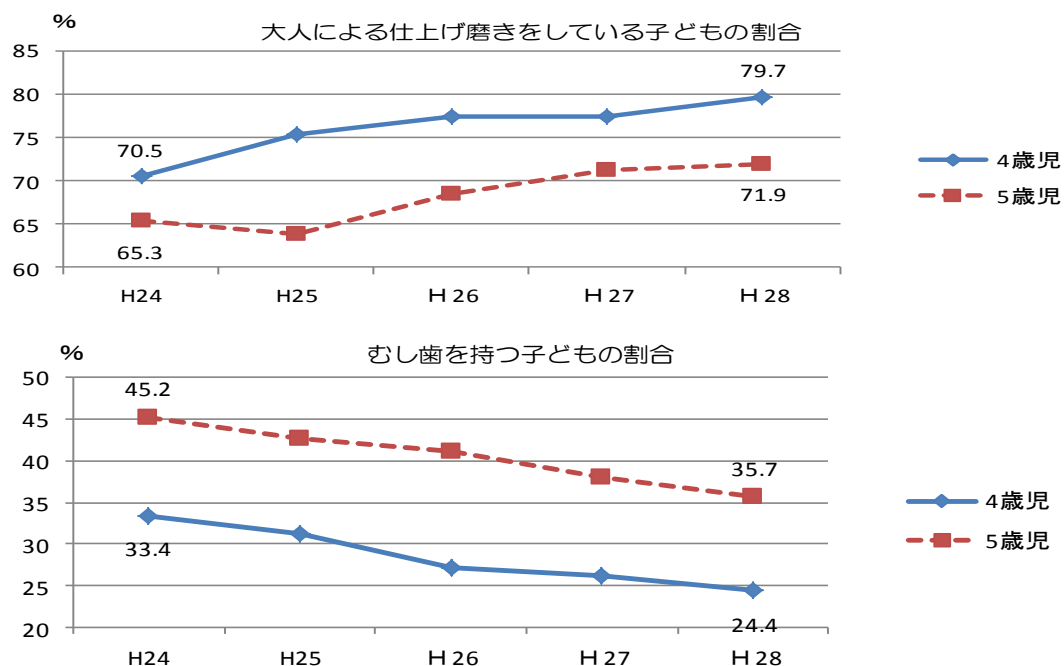


資料：3歳児健診、学校保健統計

《成果指標3》 大人による仕上げ磨きの割合を増やします

4歳児、5歳児とも増えており、それぞれ目標の70.5%、65.3%は達成していますが、年齢が進むにつれて、大人の手が離れている状況が分かります。

年々、むし歯を持つ子どもの割合は減少していますが、4歳児と5歳児を比較すると、5歳児の虫歯が約1割多くなっています。5歳児では、約3割が仕上げ磨きを毎日行っておらず、むし歯を持つ子どもが3割強になっており、手を抜かずに仕上げ磨きをすることがポイントになります。



調査対象：市内教育保育施設50施設

《成果指標4》 12歳児の一人平均う歯（むし歯）数を減らします
目標の一人1.0本を下回り、目標を達成できました。

12歳児（中学1年生）の一人平均う歯数

平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
1.15本	0.86本	1.02本	0.97本	0.82本

資料：学校保健統計

《成果指標5》 過去1年間に歯科健診を受けたことがある人を増やします
半数に届かない状況です。

過去一年間に歯科健診を受けたことがある人の割合（20～64歳）

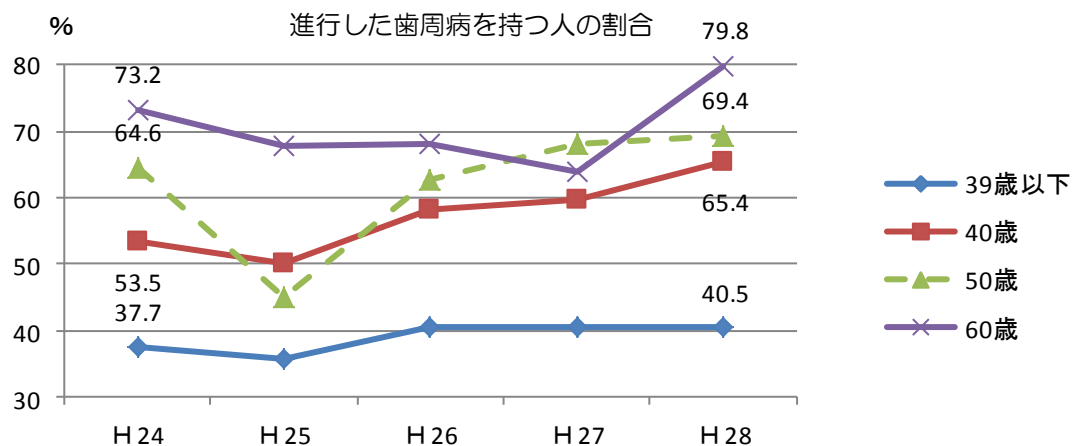
平成25年	平成27年	平成28年
42.2%	48.5%	42.0%

資料：健康づくりアンケート

《成果指標6》 進行した歯周病を持つ人の割合を減らします

進行した歯周病を持つ人の割合が各年代とも増加しており、39歳以下では30%の目標に対し40.5%、40歳では45%の目標に対し65.4%、50歳では60%の目標に対し69.4%、60歳では70%の目標に対し79.8%となっています。

歯周病に関する情報の提供と、若いうちからかかりつけ歯科医を持ち、定期的に健診を受けることで、歯周病を予防し、身体を維持するための口腔内の環境を整えていくことが大切です。



資料：2歳6か月児の保護者歯科健診、成人歯科健診

《成果指標7》 口の働きに満足している人の割合を増やします

自分の口の働きに満足している人は減少しており、目標の20%と差が広がりました。介護予防の視点からも、高齢者の口腔機能の維持・向上は大きな課題でもあります。

口の働きに満足している人の割合（70歳）

平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
13.3%	8.7%	9.5%	8.0%	7.9%

資料：成人歯科健診

《成果指標8》 70歳で22本以上歯のある人の割合を増やします

70歳で22本以上歯のある人は増加しており、目標の65%は達成しています。

22本以上歯のある人の割合（70歳）

平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
62.7%	63.2%	56.5%	66.5%	66.7%

資料：成人歯科健診

《成果指標9》 妊婦、成人の喫煙率を減らします

妊婦では、減少傾向にあります。目標の0%は達成できていません。また、母子健康手帳を交付された妊婦のうち、平成25年度は28.3%、28年度は25%の妊婦に喫煙歴があります。妊娠をきっかけに禁煙をするとはいえ、40歳から64歳の女性の喫煙が28年度7.9%となっていることから、妊娠を契機に禁煙した女性が再喫煙しているものと思われます。

40歳から64歳の男性は目標30%に対し35.2%、40歳から64歳の女性は目標5%に対し7.9%、65歳から74歳の男性では目標15%に対し21.8%、65歳から74歳の女性では目標1.9%に対し2.6%と、すべての年代、性別で増加していました。

妊婦、成人の喫煙率

		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
妊 婦		3.3%	2.9%	3.2%	2.7%	2.1%
40～64歳	男性	33.6%	36.4%	34.7%	35.2%	35.2%
	女性	6.5%	7.9%	7.9%	8.5%	7.9%
65～74歳	男性	18.7%	20.9%	21.5%	21.2%	21.8%
	女性	1.9%	2.9%	3.2%	3.2%	2.6%

資料：妊婦相談、特定健診質問票

《成果指標10》 赤ちゃんのいるところでたばこを吸わない家庭の割合を増やします

赤ちゃんのいるところでたばこを吸わない家庭は96.2%で、目標とした100%には達しませんでした。面談の中で「換気扇の下で吸う」「外で吸う」という回答が多くありました。換気扇は分煙にはならないこと、また、外で吸ってきても、有害物質は呼気に含まれ、衣服にも付着しており、児を抱いた際、児に影響があることなど、啓発していかねばなりません。

4か月児のいる家庭でたばこを吸わない家庭の割合

平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
96.5%	93.8%	92.4%	92.4%	96.2%

資料：4か月児健診問診票

《成果指標11》 将来、たばこを吸わないと回答する子どもの割合を増やします

中学2年生は微増、高校2年生は増加傾向にあります。たばこの害について、正しい知識を持ち、自分で判断できる能力を身につけることが必要です。

将来、たばこを吸わないと回答する子どもの割合（中学2年生、高校2年生）

	平成24年	平成25年	平成27年	平成28年
中学2年生	73.4%	74.0%	74.8%	74.3%
高校2年生	79.9%	78.9%	80.5%	84.6%

資料：健康づくりアンケート

《成果指標12》 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人の割合を減らします

どの年代も適量とされる以上の飲酒をしている人が増えています。特に、女性が増加しています。

生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人の割合

		平成24年	平成28年
40～64歳	男性	16.9%	19.5%
	女性	5.0%	13.4%
65～74歳	男性	7.6%	12.7%

資料：特定健診質問票 男性：2合以上飲んでいる人
女性：1合以上飲んでいる人